

## 人のうごき

令和8年2月中の掲載希望届出分

### おくやみ

小野 博子さん	88歳	焼尻
佐藤 鶴子さん	97歳	栄町
嶋元 力雄さん	90歳	港町
本間 雄三さん	85歳	南2の1
林 桂子さん	88歳	南大通3
岩崎 容子さん	87歳	北2の1
渋谷 梅子さん	70歳	幸町

### 戸籍の届出について

戸籍の届出は休日も対応しています。休日にお越しの際には連絡事項等がありますので、事前に町民課総合受付係までお電話ください。(☎ 68-7003)

### 人口と世帯数(2月末)

人口	5,752人	(- 7)
男	2,800人	(- 1)
女	2,952人	(- 6)
世帯数	3,281世帯	(+ 4)
( )は前月比		

### 編集後記

佐々尾先生、長年「Dr.佐々尾の健康カルテ」を連載いただきありがとうございました。

私が広報はぼろを担当した頃には既に連載が始まっていましたが、多くの方々に読んでいただきたいという思いから、令和2年6月号以降、毎年1月号を除く月の裏表紙に掲載させていただきました。

この度、道立羽幌病院を去られるため、本連載につきましても終了となりますが、新天地でも変わらぬご活躍を期待しています。(N)



## Dr. 佐々尾の健康カルテ

### 最終回

2013年4月から道立羽幌病院で勤務いたしました。2026年3月末で退職することとなりました。これに伴い、このコラム欄は今回が最終回となります。2013年10月に始まり、今回でキリよく150回目になります。

このコラム欄は、当時の福祉課長さんと飲み会の席で一緒にしたことを機に、このような機会をいただくことになりました。150回になりますので、同じ病気の話も度々登場しましたが、できる限り切り口が違うようにしてきました。伝えたいことが多く、それを約1,000字強程度におさめることは、なかなか骨の折れる作業でした。ただ、定期外来で普段お会いしている方には「毎回読んでタメになるよ」「今度は糖尿病の話を書いて」など伝えていただいたり、予約外の外来でたまたまお会いした方から「コラムを書いている先生ですね！」と声をかけていただくことが、外来で何かしらの話をするきっかけの1つになりましたし、執筆の励みになりました。

赴任してから13年間、さまざまな出来事を思い出します。2018年の胆振東部地震のブラックアウトの際は、みなさんが互いに気遣い合う様子を見聞きし、いざという時に「互助」が機能しており、都会とは違うことに感服いたしました。2021年の新型コロナワクチン接種では、初期にはほぼ全ての方が接種され、町民のみなさんの意識の高さが垣間見えました。介護福祉関係者のみなさまとは、風通しの良い連携体制が年々できあがり、おかげさまで学会に呼んでいただき紹介できるほどにまでこの地域連携が成長でき、今後も医師が変わったとしても持続可能なものであると確信しております。

診療では「自分の親にしない治療はしない」ということを念頭に置いていました。一例として眠剤や安定剤について、当地では多くの方に処方されている状況にあり、私が着任して早い時期に保健所の保健師から「異常です」と指摘をいただいたことは大変重く受け止めました。これは患者さんご自身が悪いのではなく、私も2008年に一度当院で勤務しており違和感なく処方していましたが、私も含め過去の医師の責任でもあったと思います。患者さんは医師を信用し、処方されたものを服用します。私たち医師が転倒や認知症などのリスクを知りながら、その危険を負わせてしまっていた反省のもとに、内服薬ではなく生活習慣指導を中心になりました。患者さんの中には処方されなかったこと、変更すべきであると指摘されたことを不快に思われた方もいらっしゃるかもしれません(一方で眠剤を止めてスッキリしたと報告して下さった方も多くいます)。これに限らずご自身の意に沿わないこともあったかもしれませんが、このような思いがあったことも御理解いただければと思います。

13年間、誠にありがとうございました。今後の羽幌町民のみなさまの健康と御多幸をお祈り申し上げます。

(北海道立羽幌病院 副院長 佐々尾 航 医師)

